

2023年11月14日

「一般職の職員の給与に関する法律等の一部を改正する法律案」及び「特別職の職員の給与に関する法律及び二千二十五年日本国際博覧会政府代表の設置に関する臨時措置法の一部を改正する法律案」に対する討論

立憲民主党・無所属 山岸一生

立憲民主党の山岸一生です。私は、会派を代表して、国家公務員一般職の給与法改正案に賛成、そして、「総理賃上げ法案」である、特別職の給与法改正案には断固反対の立場から討論いたします。

きたる12月8日、岸田総理大臣はじめ大臣、副大臣、政務官の皆さんを含む国家公務員に、冬のボーナスが支給されます。この法案が成立すれば、今年夏のボーナスにさかのぼって増額となり、冬のボーナスで合わせて支給されます。その増額分は、総理大臣についてはなんと36万円に上ることが、先日の国会審議で、明らかとなりました。

ボーナス36万円アップ。岸田総理、それに見合う仕事をしてきたと、胸を張って国民に言えますか。私は、大いに疑問です。

いま国民のみなさんは、物価高と、追いつかない賃上げに直面しています。対策として、総理は減税だとおっしゃる。ですが減税が届くのは、「来年6月のボーナスのタイミング」だと、総理ご自身がおっしゃっています。

そもそもボーナスを受け取れない不安定雇用の方もたくさんおられます。国民には「来年」のボーナスまで辛抱しろと言いながら、「来月」のボーナスで、総理ご自身が36万円もの増額を手にする。総理のおっしゃる「私が先頭に立って賃上げを働きかけていく」とは、自分の賃上げから始めていくということなのではないでしょうか。順番が違うのではありませんか。

ボーナスではありません、この法案により、年間で総理は46万円、国務大臣は32万円の年収アップとなります。また、仕組み上これに連動して、われわれ国会議員のボーナスも18万円アップします。

人手不足の中でも懸命に行政を支える自治体や省庁の現場。使命感を持って奮闘する自衛隊の現場。私たちは、現場で必死に頑張る国や地方の公務員の給与を、民間と同じように引き上げることには、大賛成です。

しかし、政治家の賃上げは、違う。今の経済状況を招いた責任のある政治家が、真っ先に自分たちだけは給与アップ。まさに「永田町の常識は、世間の非常識」です。このようなおかしい法案を、通すわけにはいきません。

このような常識に照らしておかしい法案が、どうしてすんなりと国会に提出され、きょう採決を迎えてしまったのか。政府・与党には、途中で、誰か一人でも、おかしいと思う人はいなかったのでしょうか。誰か一人でも声を上げる人がいれば、このような恥ずかしい事態

にはならなかったはずですが。

必要な時に、声を上げない。これは、大阪・関西万博の費用の膨張も同じです。見直そう、立ち止まろう、そうした声をもっと早く上げていれば、ここまでの失態にはならなかった。今回の法案には、責任者である万博の政府代表の給与アップも含まれています。あわせて、認めることはできません。

言うまでもなく、公務員の賃上げの財源は、国民の皆さまからお預かりしている税金です。徴税・納税への信頼なくして、進めることはできません。神田財務副大臣のたびかさなる税金の滞納は、極めて悪質です。神田副大臣は、昨日、辞表を提出されました。国会に報告のないまま、逃げ出すおつもりなのでしょうか。

税金すらまじめに払わない政治家が、自分たちの給料やボーナスはお手盛りで引き上げる。このような政治に対して、怒りの声が多く上がっています。私自身、政治家の一人として恥ずかしく、情けない思いです。

高まる批判に、政府は慌てて、法案を通して月給・ボーナスを引き上げたうえで、総理大臣や政務三役は引き上げ分の全額を国庫に返納すると、言い出しました。なぜ、そのような二度手間をかけるのですか。国会で決めた法律の内容を、返納で骨抜きにするのは、立法権の侵害です。そもそも、最初から据え置けばすむだけの話です。

立憲民主党は、内閣委員会に修正案を提案しました。総理大臣、閣僚をはじめとした政務三役については、月給とボーナスを引き上げず、据え置くとともに、連動して引き上げとなる国会議員のボーナスも据え置く内容でした。しかし与党と一部の野党により、否決されたことは残念でなりません。

政府はこの総理賃上げを、他の役職とのバランスを守るためだと説明しています。しかし守るべきバランスは、国民生活とのバランス、経済状況とのバランスです。過去には平成10年、小渕政権において、当時の厳しい経済状況を理由に、政府案を議員修正し、総理大臣、国務大臣、国会議員の月給・ボーナスを据え置いた前例があります。今こそ、こうした優れた前例に、学ぶべき時ではないでしょうか。

増額分の返納の決断も遅い。減税も遅い。賃上げも遅い。万博の見直しも遅い。神田副大臣の更迭も遅い。岸田政権はあらゆる決断が遅い、遅い、遅い。ただ一つ早いのは、総理ご自身の賃上げ。悪い冗談はもう、おやめいただきたい。

良識ある与野党議員の皆さん、今からでも遅くありません。いま地元で、有権者の方々に、胸を張って「政治家のお給料を上げさせてください」とおっしゃっている方は、おそらくおられないでしょう。自ら自信をもって説明できないような悪法を、漫然と通してはなりません。特別職の給与法改正案に、ともに反対していただくようお願いし、私の討論といたします。ご清聴ありがとうございます。